

事業所名		公表日				
ほっこのり		令和7年 5月 9日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	・放デイだけではなく、同じ施設内に他の入居施設がある事が良い結果に繋がっていると思う。	・恵まれた環境を生かし、安心できる環境の中で、サービス提供を継続していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	・短時間の職員も含めて利用者の人数にはあっていると思う。	・急速の職員の休みを想定し、他事業より応援職員を配置するなど、あらかじめ取り決めをし、サービスの質を落とすことのない体制づくりを行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	・視覚支援をするなど工夫が見られる。	・お子さんの増加に伴い、引き続き、受け入れ前より職員間で話し合い、環境設定に力を入れます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・子どもの気持ちをごきまで受け止めるかは個々に差があるが、心地よい環境が作られている。	・感染症や食中毒のリスクを、定期的に職員間で再確認していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・当日の出席者で部屋を決めているので個別対応できるように工夫している。	・日程を分けるなど、全職員が参加できる状態をつくっていきます。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	2	・発案と取り組みをする。	・業務改善できている所、できていない所をもっと明確にし、職員1人1人が日頃より、意識しやすいようします。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・保護者には丁寧に様子を伝えて関係を築いてきたので、面談では本音を聞ける場面が増えている。	・公開している旨を、保護者に周知いたします。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・意見の把握はよくやってくれる。	・職員間の意見交換の場面は、常に出来ている為、どうするかの話に繋がっていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2	・自己評価のアンケートをもとに、改善点み繋げている。	・施設連絡会で外部の見学、評価を受ける仕組みもできればと思います。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・全体研修や市内一斉研修への参加が保証されているのが良い。	・研修の情報をより多く取り入れていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・作成、公表はされている。	・ホームページにて好評を行い、プログラムに沿った内容をSNSを通じて投稿してまいります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・担当した職員の声をきいて作成している。	・より専門性を高め、お子さんの発達に合わせた計画をたてていきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	1	・チームとして全体の意見を聞き、作成している。	・気づいたことがあればその都度、報告を行い、作成致します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2	・計画書の変更があった際は、確認し、計画書に沿った支援を心がけている。	・遊びや好きなおもちゃなどは個々にケースに入れて環境を整え続けます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	・一応決めている。	・外出時などに行動の順番や場所のシートを作成していきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・内容は丁寧に作られている。	・令和6年度より、制度改正により、発達支援の5領域も組み込み、内容を高めていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・対応した職員の声を聞きながら計画を立てている。	・他事業の情報や活動内容にもアンテナをはり、より充実したプログラムにしています。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・他所の事業所のプログラム等を参考にしたり研修プログラムも利用している。	・お子さんの発達に合わせた、小さな変化も大切にしています。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		・発達に近い子ども同士の関わりも考慮して一緒に楽しめるリトミックや郊外活動が続いている。	・活動プログラムの公開も行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	・好きな遊びや食べ物等、興味の物が見つかった時は共有するようにしている。	・打ち合わせの段階で、リスクヘッジにも力を入れています。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	4	・翌日に伝言するようにボードに記入している。	・気付きでは、良い所、強みに焦点をあてることを念頭に置いています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	・記録をとる係以外でも関わった子どもの変化に気づいた時は伝え合うようにしている。	・支援記録においても強みの成長、次の支援の改善を記載しています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	2	半年に1回の見直し、モニタリングを行い、保護者様と一緒に支援方針を統一している。	・せっかくの計画の見直しをする職員会議を月一回定例化しています。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	・管理者が参加している。	・日頃より、相談支援事業所との繋がりを大切にしています。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	・通院後は保護者から報告を受けている。	・日頃からの関係性を大切にして、関係機関全体で、お子さんの支援を円滑に進めています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	1	・できるだけ情報の共有を図れるように心がけている。	・保育園や幼稚園への訪問を積極的に行い、お子さんの特性や支援方法の共有を図ります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		・引き続きをしてもらうようにし個人ファイルを作成している。	・現在、学校機関との連携は、相談支援員を通す決まりとなっていますが、直接やりとりができるようになればと思います。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	10		・配慮する点など注意を受けると耳は傾けている。	・児童発達支援センターや児童発達支援事業など、専門機関との連携を日常的に行えるようにしています。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	1	・地域の子どもが遊びに来てくれることがある。	・地域交流スペースを設けている為、今後地域のお子さんを対象に学習室を開放するなど、より多くの交流の機会を持てるようにします。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	・理解している職員が多い。	・半年に1度のモニタリングだけでなく、送迎時などご家族とのやりとりを大切にしています。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	・管理職は研修を受けている為、レスパイトケアに努めている。	・事業所内での研修開催時にご家族の参加を促すなど、ペアレント・トレーニングとなる機会をつくっていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		面談で説明を行い、意見を聞いている。	・定期的にご不明な点がないかなど、事業所からアプローチしていきます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		面談だけではなく、送迎の中でも話を聞く機会をつくっている。	・計画書の説明の際は、相違がないよう丁寧に説明していきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		面談の中で計画について話すので同意は得やすい。要望がある時は聞いている。	・相違がないよう丁寧に説明していきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		面談は定期で行っている。不定期な時に悩みを聞く事が多いように感じる。	・保護者様が相談しやすいように、関係性を築いていきます。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	2	直接会を催すことはしていないが、情報をもらえた時は聞くようにしている。	毎年、ほっこりフェスティバルを開催しており、きょうだいお参加できるので、SNSやお知らせにて拡散して参ります。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		直接電話を入れたり体制を整えて話のできる時間をつくるように心がけている。	・申し入れがあった場合、迅速かつ適切に対応して参ります。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		SNSで子どもたちの活動の様子を知らせている。	・インスタグラムを活用し、日頃の様子を投稿し、楽しんでもらえるように発信を増やします。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人ファイル等にきちんとまとめている。	・全従業員に対して、定期的に個人情報の取り扱いについての注意を促していきます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・あらかじめ要望を聴き、職員間で共有している。	・お子さんと、ご家族の関係性のフォローも行えるように、引き続き専門性を高めて参ります。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10		・地域の子と遊ぶ機会も大切にしている。散歩などでは地域の人にこちらからあいさつをしている。	・地域交流スペースを運用し、地域との繋がりを日常化できるようにします。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・教務継続計画を策定しております。	・マニュアルの見直し、改善を年間の予定に組み込み、定期的に業務継続計画の改善をおこなっていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	・活動予定にも訓練を入れ、実施している。	・業務継続計画に添い、適切な訓練を行ってまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		・全員の情報を個々にファイリングし保管している。	・情報の再確認を定期的に行い、全従業員で共有します。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	・アレルギー欄を作成し、見える化を行っている。	・初期調査だけでなく、日々アレルギー反応がないか、お子さんの様子、状況の変化を見逃さないようにします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・誰でも、安全計画が確認できるようにファイリングされている。	・安全計画に沿った研修をし、安全性を高めて参ります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		・防災グッズの協力を求めて持ってきてもらっている。半年に1回、返却し再度確認して頂き、災害に備えている。	・防災グッズの協力を得て、災害時に備えます。また、置き場を確保して参ります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・月に1回会議を行い、ヒヤリハット報告を行っている。	・職員体制の変化などもあり、検討会の開催が不定期となってしまっている為、早急に体制を立て直し、事業所全体で事例の検討、共有をしていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	・職員を対象とした法人会議を行っている。また、貝塚市の従事者を対象とした研修にも参加し、研修内容を職員全体に周知している。	・事業所だけでなく、第三者の意見なども取り入れ、事業所の風通しを良くしていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		・個別対応できる体制を汲んだりしながらできる限り拘束のないように話し合いをしている。	・安全の為の身体拘束であっても、記録は必ず残し、必要性の判断も事業所だけ行わず、主治医など第三者の意見を取り入れます。